

# 自灯明 法灯明

自法寺報  
第4号  
平成26年  
6月18日

発行

曹洞宗

祖廣山 自法寺

〒509-8232

恵那市飯地町

919 番地

編集

住職 小栗隆博



## 「自灯明法灯明」その三

お釈迦様が亡くなる直前の最後に残された言葉はこのようなものでした。

「（我が弟子）アーナンダよ、汝等はここに、自己を洲（しま・灯明）とし、自己をよりどころとし、他をよりどころとせずに住し、法を洲とし、法をよりどころとし、他をよりどころとせずに住しなさい」と。そして、身体、感受、心、法のそれぞれをいちいち観察し、その状態を正しく知り、正しく思い、壊れゆく世間のものに対する貪りと憂いを取り除いていくように示されました。そしてそのように過ごすことこそが、修行者としての最上のあり方であると示されたのです。

自らの死を目前にして、弟子に説いた教えは、それぞれが自分自身と法（ダルマ、仏法）を灯として歩めと言うものだったのです。すがりつく弟子に対して、少し突き放した物言いにも捉えられるかもしれないが、これは、最後に頼るべきものは自らの中に見いだすしかないという、極めて現実的なお教えなのです。

仏教やほかのさまざまな宗教には、つらい時や困った時に、仏さまや神さまにすがったり、助けを求めたり、ともすると現実逃避とも捉えられかねない一面もあります。もちろん宗教にはそういういった作用もあり、それはとても大切なものであります。ただ、その前段階として、も

ともとの仏教には、他の何者にも頼らず、厳しく自分と向き合っていくという姿勢が求められていたのです。

このように「自灯明法灯明」とは、仏教の根本的な教えを示す、象徴的な言葉であると言えます。そしてそのような言葉から導かれる当山の「自法寺」という寺名は、たいへん珍しいものであると同時に、仏教の根本を象徴したとても有り難いものであると言えるでしょう。（了）

## 「葬祭」考 その二

前回に引き続き、葬儀についてあれこれです。

### 一、骨葬について

当地では、葬儀の前に遺体を荼毘

してから葬儀を行います。このことを「骨葬」と言いますが、これは日本全国に広くある習慣です。

とは言っても、葬式が終わってから茶毘すれば良さそうなものなのに、どうして葬儀の前にお骨にしてしまうのでしょうか？

旧来、葬儀の後には葬列を組み、遺体を墓地へ運んで、直接土葬しました。やがて火葬が普及したために土葬の習慣は無くなりましたが、葬儀の後に直接墓地に埋葬（納骨）する習慣は残ったので、直ちに埋葬できるように葬儀の前に茶毘をするようになったのです。

であるならば、当地のように骨葬の習慣のある場合は、できるだけ墓地への葬列が組めることが望ましいです。また、少なくとも葬儀の当日に埋葬（納骨）してしまうのが本来のあり方でしょう。

しかし最近「しばらくはお骨のままお祀りして、四十九日に納骨を」と望まれる方がしばしばいらつしゃ

います。ですがこれは、主に首都圏を中心として最近に広まつてきた習慣に過ぎません。この場合は葬儀の後に火葬するために、時間の都合も考えて、納骨は後日改めてという段取りが一般的となったと思われるます。

おそらく首都圏を中心に葬儀自体が商業化するにつれて、やがてそれがマニュアル化され、これが全国に伝播していったものと思われるます。

しかし葬儀の現場においては、それぞれの地域の独自性が尊重されなければなりません。過剰な商業化の先にあるのは、文化や伝承の破壊であるのかもしれない。

(以下次号)

**行事予定**

◎山門施食会および総会のご案内

例年のように施食会法要と総会を、左記のとおり執り行いますので、ご参拝下さいますようご案内申し上げます。

**記**

日時 平成二十五年

七月二十一日(月)海の日

場所 自法寺 本堂

日程 午前十時〜施食法要・特別

供養 十一時〜法話・臨濟宗妙心寺

派、関市大禅寺住職・いのちに向き

合う宗教者の会代表・根本一徹師

正午〜総会・予算・決算の承認と報

告・昼食

※特別供養は、七月六日(日)までにお申し込み下さい。

◎金曜坐禅会

参加者募集中です。お誘い合わせで気軽にご参加下さい。

曹洞宗

祖廣山 自法寺

電話/FAX

0573-22-3533

jihouji@gmail.c